

# 福島に大輪のエアール

## 「ひまわり甲子園」に宇治の整骨院

各地で育てたヒマワリの種を原子力災害に苦しむ福島県に送り、観光などに役立ててもらおう支援を続ける宇治市伊勢田町の「のぞみ鍼灸整骨院」が9、10の両日に同県で初開催される「ひまわり甲子園全国大会」に出場する。栽培を通じて深まった患者や住民との交流などを報告する。

同院を経営する小嶋道 参加し、宇治市内で200  
範さん(38)と院長の小 11年と12年の夏にヒマ  
川由智さん(32)が出場 ワリを育てた。  
する。福島県の若手経営 同プロジェクトは、ヒ  
者らでつくるNPO法人 マワリを育てる「里親」に  
が取り組む「福島ひまわ 種を販売し、福島県から  
り里親プロジェクト」に 全国各地に発送する。里



福島県から届いたヒマワリの種を育て、開花を喜ぶ  
鍼灸整骨院のメンバー。採取した種は全て福島へ送  
った(2011年8月、宇治市内)

## きょう開幕 復興の種、育てた絆報告

親は地元で開花したヒマワリから採取した種を福島へ送り返し、今度は県内の人々がその種を育てる。昨年は1万4千の団体・個人が里親となり、全国から集まった約5万の種は県内9千カ所に届けられ、農地や道端などで大輪の花を咲かせた。

県内の障害者施設が種の包装や発送業務を担い、原発事故で深刻な被害を受けた福島県の観光や雇用を盛り上げる。全国の人がヒマワリ栽培を通じて福島復興に関わるため、東日本大震災の風化を防ぐ狙いもある。

大会は里親と福島の人々の絆を深めるため企画された。全国から京都や広島など4府県5団体が出場し、ヒマワリの栽培体験で得たエピソードを発表する。

小嶋さんと小川さんは「ヒマワリを通じ、遠く離れた福島とも心がつながっていた。『福島を忘れない』というメッセージを伝えたい」と話している。(柿木拓洋)